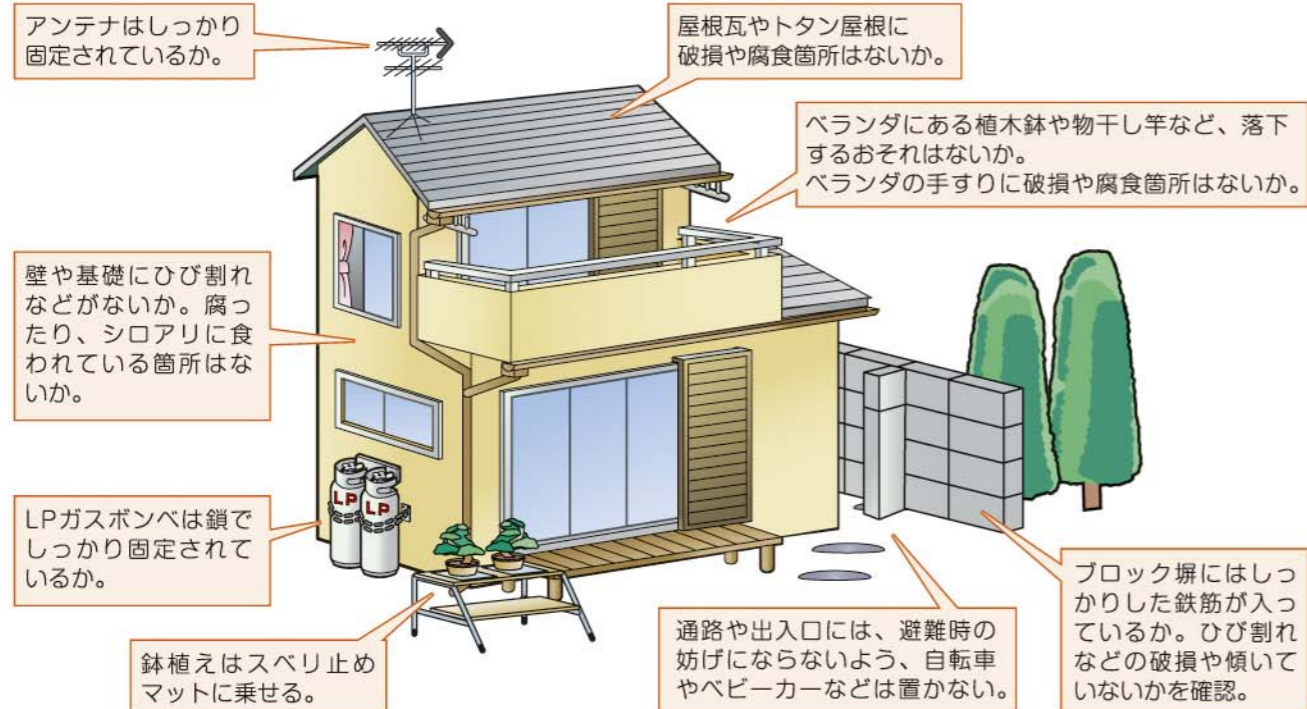


地震に備える

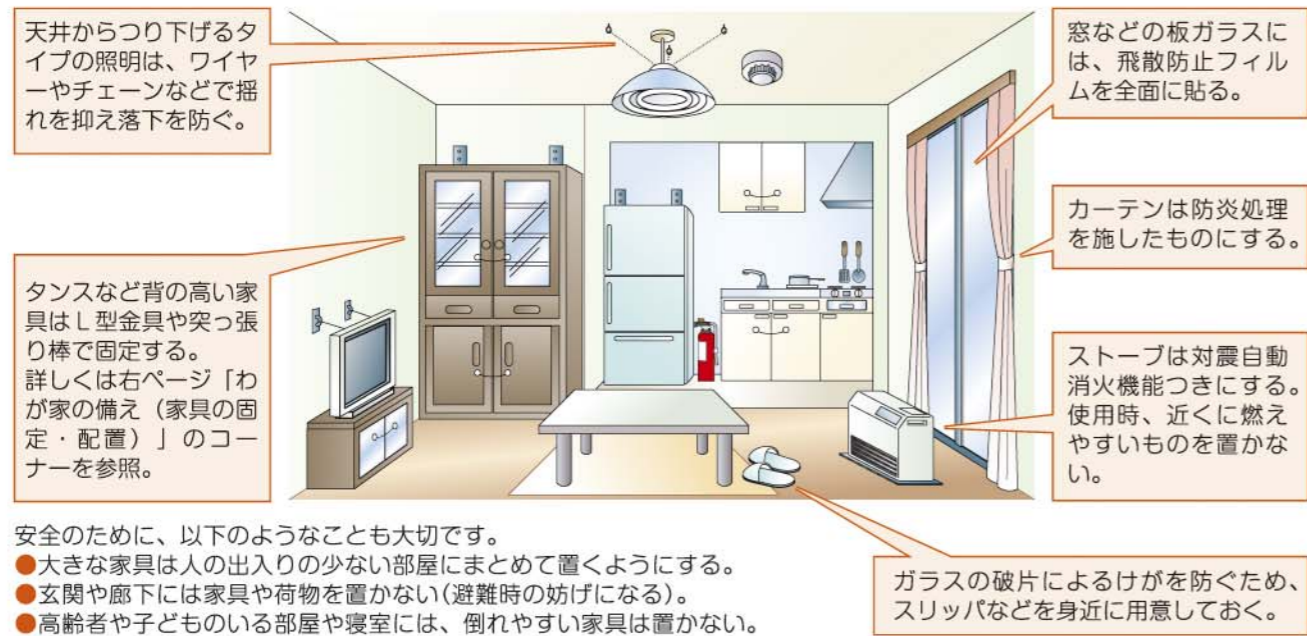
わが家の備え(屋外・屋内)

地震対策は、行政だけでできるものではありません。個人の生命や財産を守るためには、みなさん一人ひとりあるいは家族が協力して地震に備えておく必要があります。屋外・屋内について、地震に対する安全性を点検しておきましょう。

屋外の備え・点検箇所



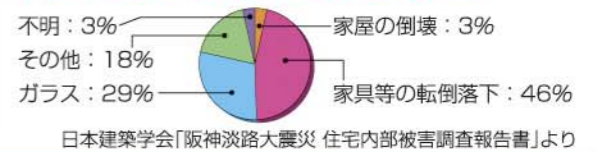
屋内の備え・点検箇所



わが家の備え(家具の固定・配置)

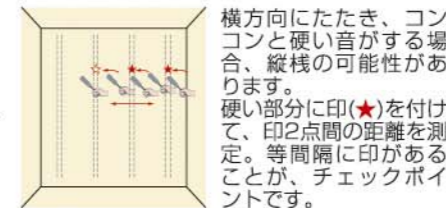
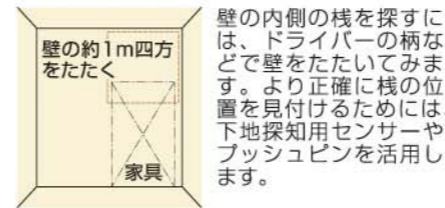
大きな地震では、建物に特別な被害がなくても家具の転倒や散乱によって、逃げ遅れたり屋内でケガを負うことがあります。家の中の家具についても安全点検をして、家具の固定や配置換えなどを行っておきましょう。

阪神・淡路大震災でけがをした人の原因

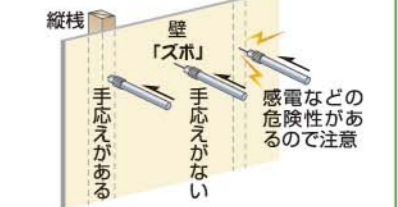


固定できる壁の探し方 ※壁によっては固定できない壁もあります。

●ドライバーでたたいて壁を探る方法

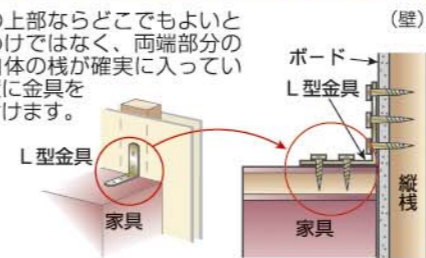


●プッシュピンによる確認の方法



壁の桹と家具の桹をL字金具で固定

家具の上部ならどこでもよいというわけではなく、両端部分の家具自体の桹が確実に入っている位置に金具を取り付けます。



家具の桹の幅が短くて木ネジが固定できない場合は、板を渡して家具の両端と奥に固定します。



家具の幅や置きたい場所に合わないときは、家具の高さに合わせて、横木を壁の桹に取り付け、L字金物で家具を固定します。



桹に固定できない場合の固定方法(壁の中に桹がなく、やむを得ない場合)

家具の上部が、鴨居や横木から離れていて、やむを得ずベルトやチェーンなどを使って固定する場合は、家具の側面に30度以下の角度でピンと張ります。たるみがあると効果はありません。



突っ張り棒タイプのものであるには、天井に家具を支えるだけの耐力がないと危険です。しっかりと天井でも天井とのすき間が少なく奥行きのある家具でない、大きな効果は期待できません。



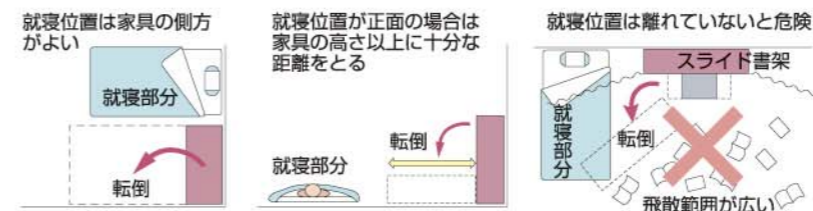
高さを調整しながら天井と家具を支える上置型すき間埋め収納ユニットを利用します。



家具の配置にも工夫を

室内の家具の配置は、万一、大きな揺れで転倒した場合に、大けがをしたり、部屋に閉じ込められたりしないように、安全という面からも工夫しましょう。

安全な就寝の位置は家具の側方です。もしも家具の前方に就寝する場合は、家具の高さ以上に十分な距離をとります。スライド書架付きの本棚は安定が悪いので、就寝の位置からなるべく離れた方が安全です。

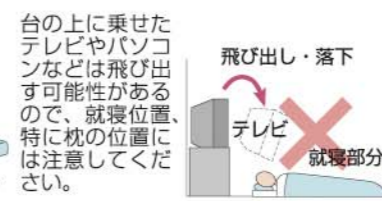


部屋の出入口付近に家具を置くと、家具の移動や転倒、収容物の散乱などによって、避難路が遮られることがあるので、家具を置かない方が安全です。



●積み重ね家具の固定方法

家具の内側で固定する方法もあります。



引用：地震による家具の転倒を防ぐには(家具の転倒防止対策に関する検討委員会作成)